相談支援の現在地とこれから
～当事者の゛こう暮らしたい゛に寄り添う地域づくりを目指して～

日本相談支援専門員協会　名誉顧問
福岡寿

地域に実現すべき、重層的相談支援体制
小さなケアマネ　⇔　大きなケアマネ

①基本相談(すべての基礎)　※委託相談業務(一般財源)

・「障害福祉サービス」等の直接支援に至らない様々な相談を受け留め、関係機関、当事者、家族から寄せられる情報から、中核をなす主訴を見極めつつ、その後の支援の方向を見極める。

・「アウトリーチ・前さばき・見立て・方向付け」を誤らず

・「**本人中心**」「**社会モデル**」の支援文化を地域に広げていく

②計画相談(個別給付)　※計画相談業務(義務的経費)

・「**本人中心**」「**社会モデル**」の方向性をぶらさず、単なるメンテナンスに留まらない、モニタリングを嫌が上でも必要とするアドバンスプランを指向しつつ形式知として位置付けていく

③ソーシャルワーク　※基幹相談業務(補助金、一般財源)

・「基本相談」「計画相談」等から見えてくる課題を抽出・整理し、「自立支援協議会」を主たるステージとして活用する中で、地域の課題解決、資源開発等を実現していく。

そこで‥その現在地を振り返り、点検してみる

①基本相談(すべての基礎)　※委託相談業務(一般財源)

・背に腹は代えられない。計画相談の方が急務。委託相談の存在感の低下、自然消滅‥になっていないか‥

②計画相談(個別給付)　※計画相談業務(義務的経費)

・多勢に無勢。とてもフォローし切れない。セルフプランにはしたくないが‥しかし、現実は事業所ありきの事業所セルフプラン。「預けたい⇔預かる」同義反復プラン。

計画のための計画作成になっていないか‥

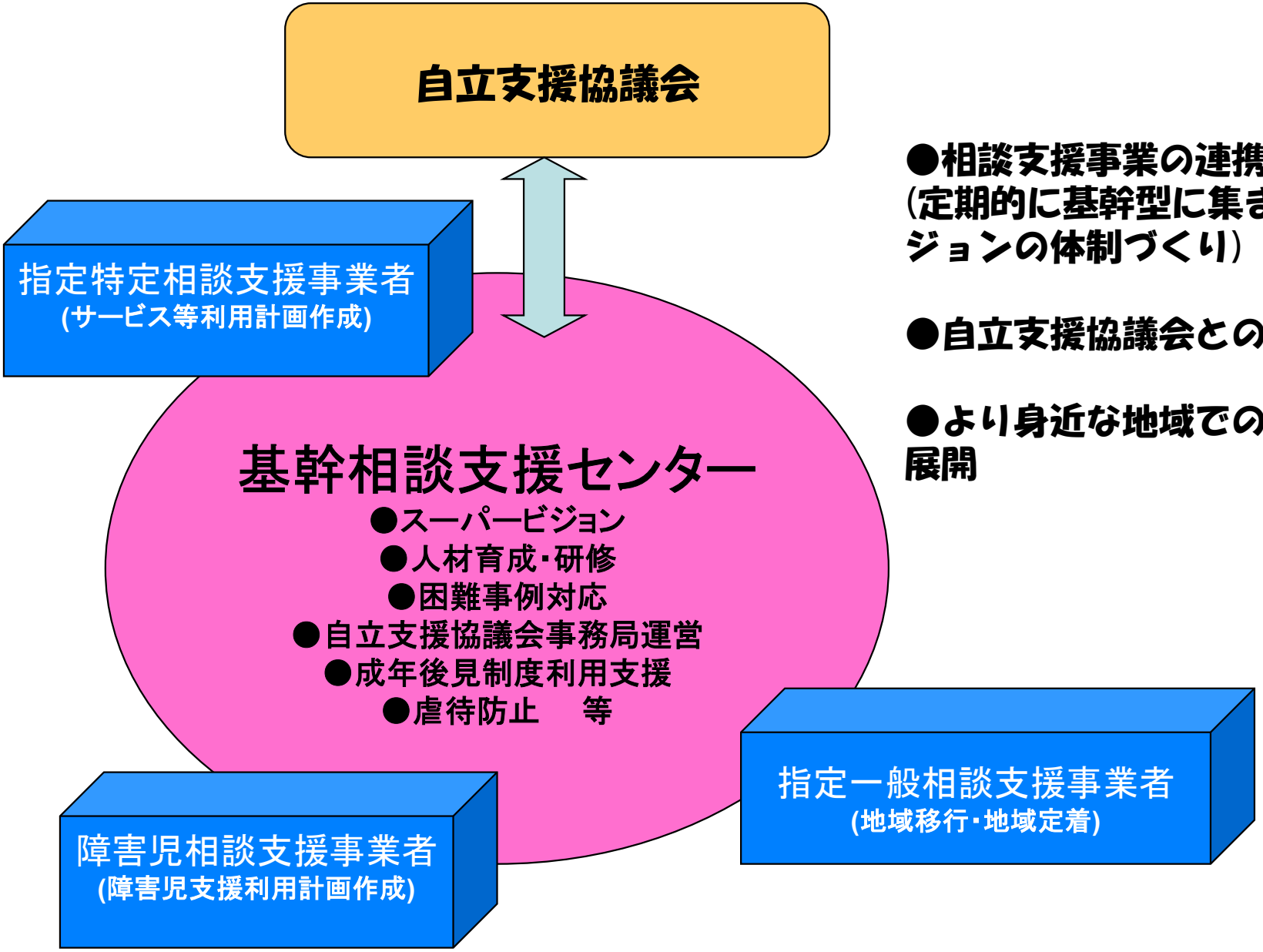
③ソーシャルワーク　※基幹相談業務(補助金、一般財源)

・続けることの大変さ。「創業と守成、いずれが難き」

・コロナ禍が拍車、いつのまにか行事的な開催。自然消滅になっていないか‥

⇒地域に、計画相談の相談支援専門員だけの孤立無援状態

基幹相談が核となり、法人が異なっても変わらない「本人中心・社会モデル」の相談支援文化を育てる

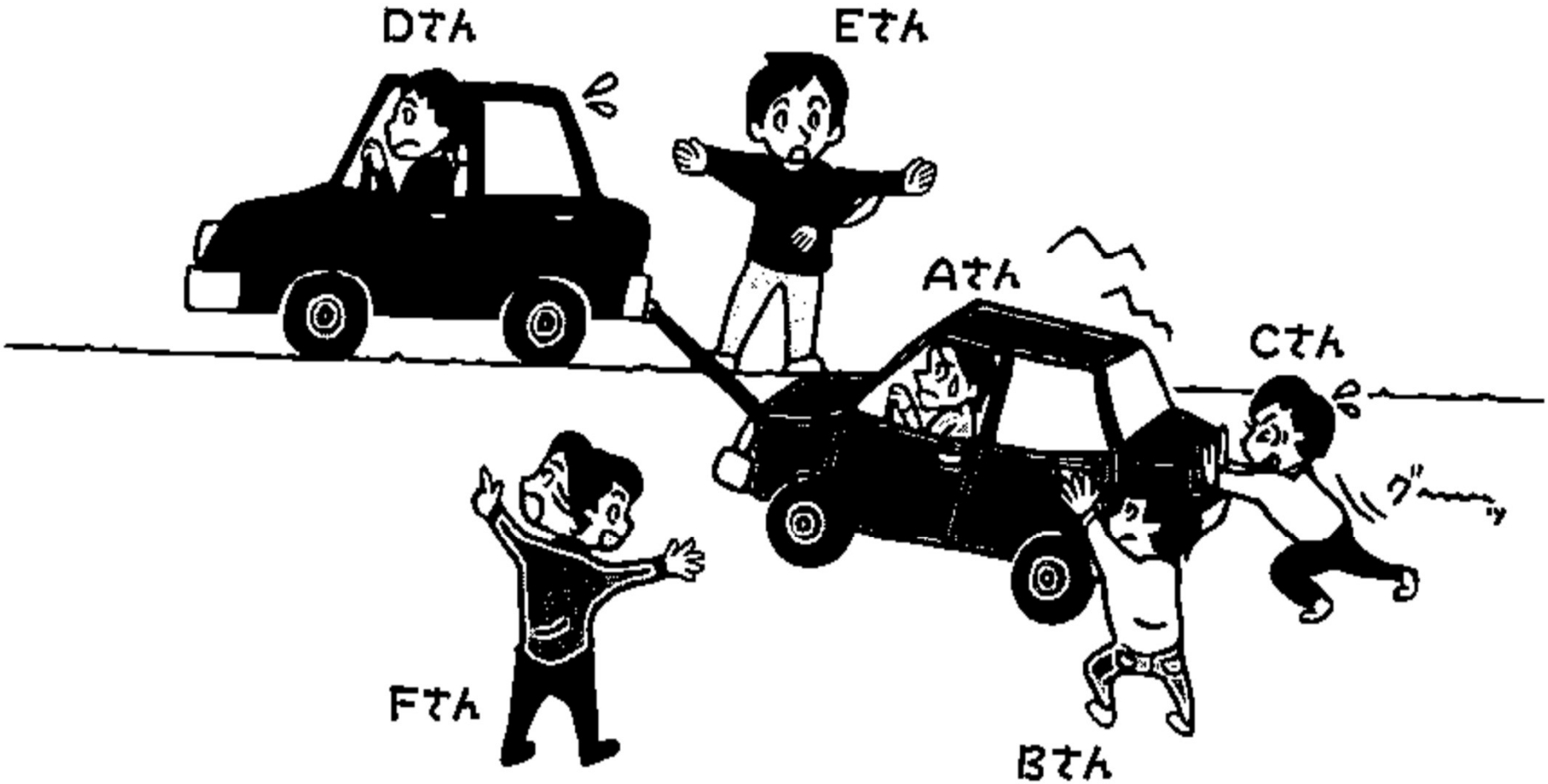


●相談支援事業の連携強化
(定期的に基幹型に集まり、スーパービジョンの体制づくり)

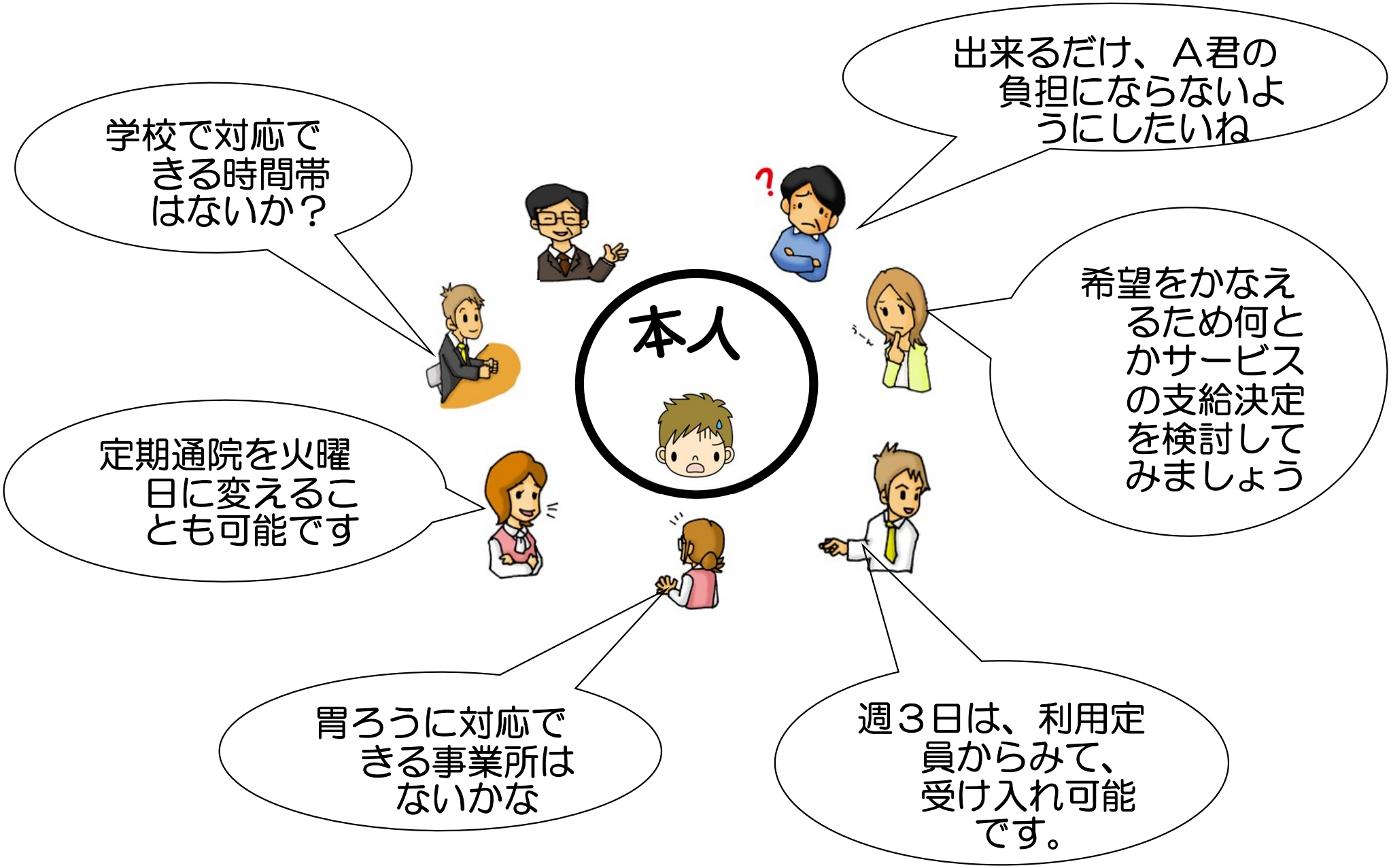
●自立支援協議会との密な関わり

●より身近な地域でのケアマネジメント展開

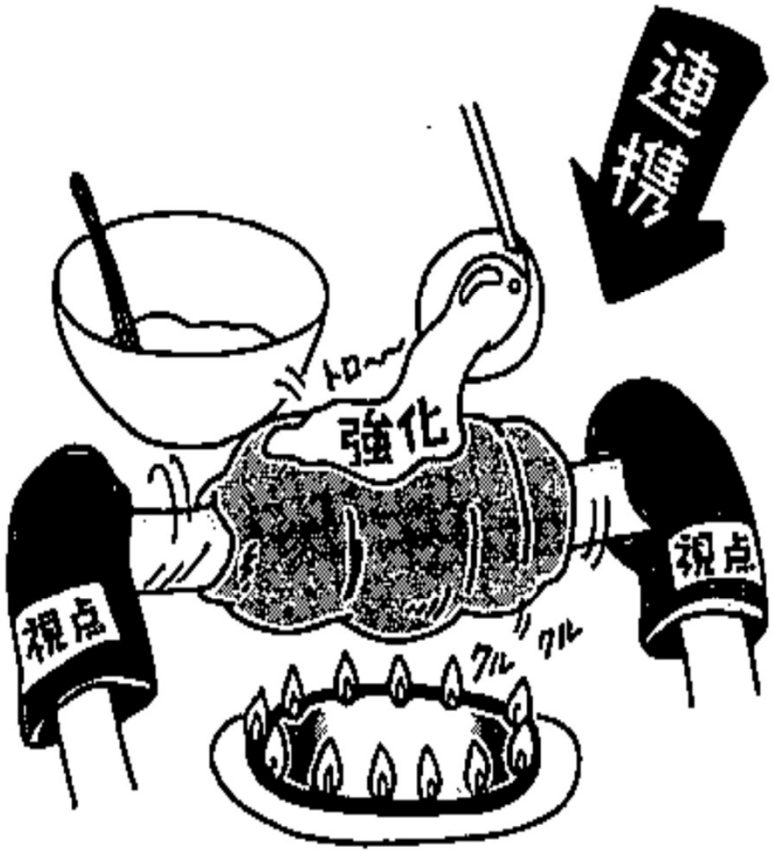
そのための日常的営み
※今、まさに、支援を求めている人がいる、という「事実」を核に、巻き込む、巻き込む
～49:51⇒51:49へ～

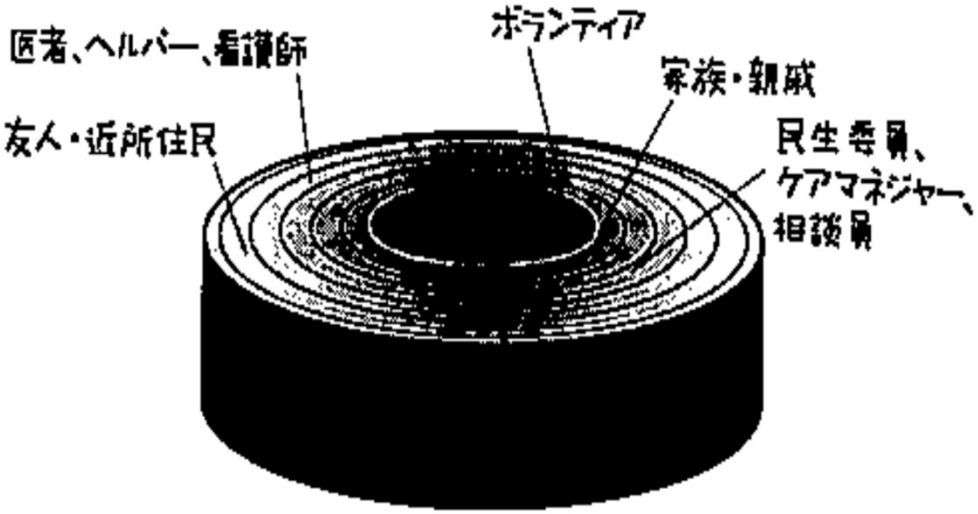


支援会議で集まり検討する
※横出し、上乗せ、資源開発、49:51⇒51:49に



バームクーヘンを焼いていくように
本人中心・社会モデル・49：51⇒51:49で協働できる
支援機関の層を厚くしていく





日常的な営み‥少しずつ支援機関を変えていく

●関わりを控えていた支援機関⇒ちょっと、ちょっと支援の手を差し伸べる支援機関に変わっていく。

※脱輪した車を協力して引き上げるように‥

※バウムクウヘンを焼くようなイメージで馳せ参じてくれた支援機関の厚みを増していく

［支援機関が変身していく］

・支援機関が「４９対５１」⇒「５１対４９」に変わる

・それによって、小さな資源が生まれる

・事業所主導の支援から本人中心の支援へと意識がかわる

・多職種連携をすることの成功経験を実感していく

日常的な「支援会議」を通じて、小さな「資源」が生まれていく

①上乗せサービスによる資源開発

(例)3時終了の生活介護が、4時まで開所時間を延長

②関係機関独自のちょっとちょっとした小さな工夫による資源開発

(例)高齢のデイサービス事業所が障害福祉サービスの基準該当の事業所となり重症心身障害児者のため機械浴の資源を提供

③市町村の要綱の変更、予算の組み替え、制度のリニューアルによる資源開発

(例)「心身障害児者居宅介護事業」⇒「タイムケア事業」に制度を変え、時間単位のレスパイトが可能となる、付き添いのための兄弟支援

支援会議・小さな資源開発の繰り返し

支援会議後の**立ち話**

⇩

共通の地域の課題に**気づく**

⇩

集まりたい、そのための**プラットフォーム**

⇩

何としても「**自立支援協議会**」

※**エンジン**必須(作戦会議・調整を進める組織)

※地域には、集まって話し合う協議の場が既にあるが‥

- **「社会福祉法」⇒「地域福祉計画」**
- **「障害者基本法」⇒「障害者計画」(義務)**
- **「障害者総合支援法」⇒「障害福祉計画」(義務)**

それに比べて‥「自立支援協議会」‥その命は‥

ミクロ⇔メゾ⇔マクロ連携(ボトムアップ⇔トップダウン)

●ミクロ(一人一人の支援)な視点での支援会議

※小さなケアマネ

・一人一人に対し関係機関による支援チームを構築する

※脱輪した車を引き揚げるように、必ず集まってくれると信じ。

・それぞれの関係機関から、可能な支援の資源を引き出す

※資源創出に向け、横出し、上乗せ、再資源化・・49:51⇒51:49

※仮に、直ぐに実現できなくとも、チームによる支援体制をベースにモニタリングを継続するプロセスを通じてバウムクウヘンの層を厚くしていく

●メゾ(ミクロとマクロを常時つないでいく集まり)

・ミクロのキーパーソンによる多職種連携のチームづくり

※地域の実務担当キーパーソンを束ねる

※Aさんの資源開発、Bさんの資源開発・・・・一つの共有資源としてのプラットホームにしていくぞ。

●マクロ(地域の課題解決)な視点での自立支援協議会

※大きなケアマネ

・予算・決裁権限のキーパーソンの集まりを儀式、行事的なものにせず支援会議から見えてくる地域課題を関係機関で共有化する

・新たな地域の支援体制構築、資源創出を行う

※相互を密接につなげていく為に

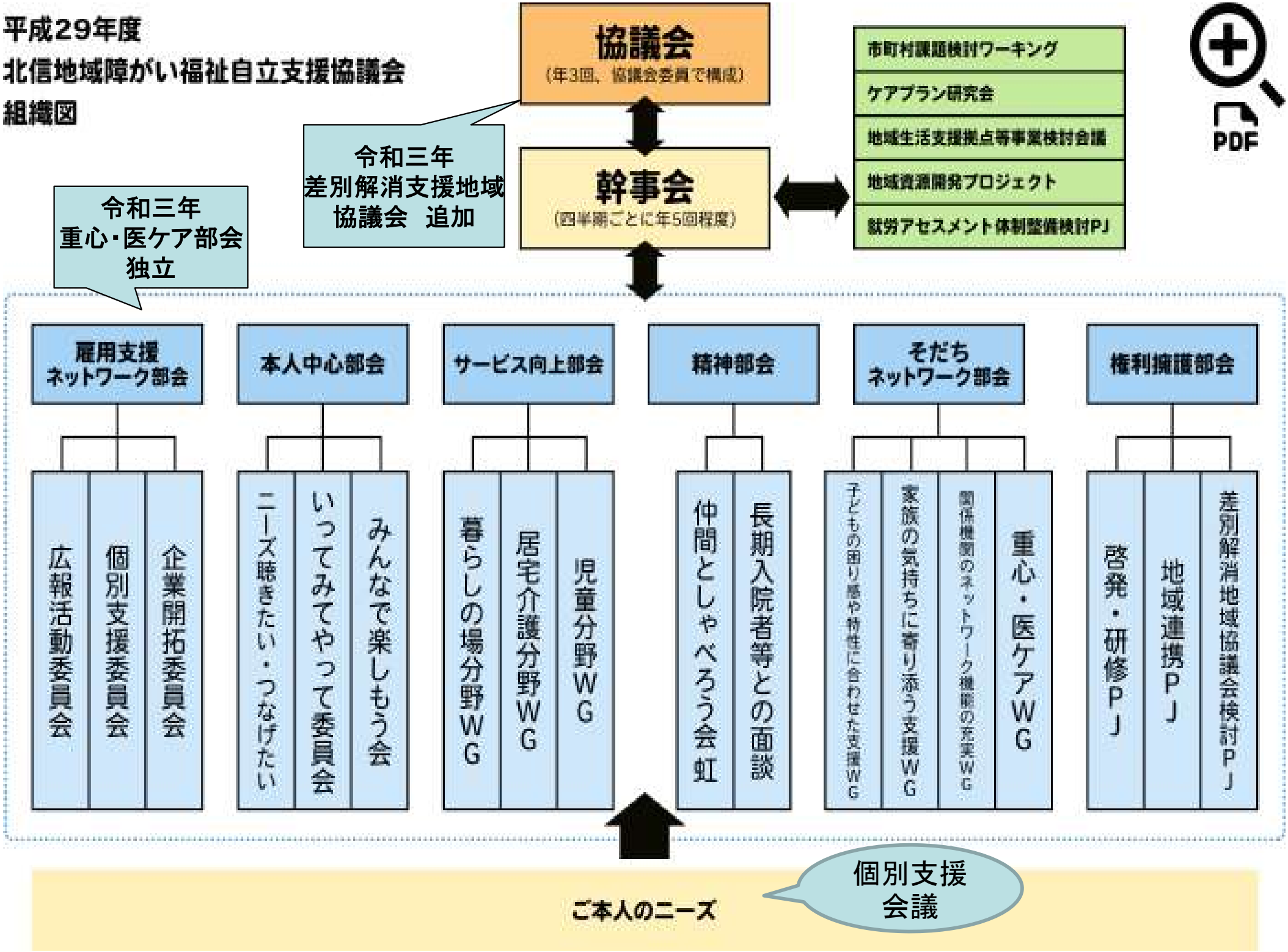
・マクロ・・「〇〇長」と名のつく機関の代表者が、儀式的、行事的に集まるだけの、浮いた組織にしない

・メゾ・・現場を実質的にハンドリングしている多職種の実務担当者レベルを常時活性化させる

※小さなケアマネと大きなケアマネに橋を架けるエンジン

・ミクロ・・メゾチームのスーパーバイズ、後方支援を通じ、一人一人の支援に対し、「本人中心」「社会モデル」の支援を現実のものとしていく(例えば、「発達障害」は、「重心、医ケア」は・・)

平成29年度
北信地域障がい福祉自立支援協議会
組織図



地域レベル
マクロ⇔メゾ⇔ミクロのネットワークづくり
メゾが機能しなければ、マクロは浮いては進化しない。ミクロは地域の議論と乖離して日々徒労感

自立支援協議会
マクロ

幹事会・
市町村
課題検討WG

本人中心
部会

サービス
向上部会

精神部会

そだち
NW部会

権利擁護
部会

雇用支援
NW部会

ネットワーク
メゾ

●ミクロとマクロをつなぐ

行政・保健・療育機関・教育・就労・福祉(相談支援専門員・サビ管・サビ提等事業所)

キーパーソンの作戦会議の場づくり

個別ケース
ミクロ

サービスに
つながって
いない人

計画相談

ハイリスク

メゾ機能が出来ていれば、課題は変わっても対応力は変わらない
※課題‥発達、医療的ケア、地域生活拠点、生活困窮等

当事者に寄り添う地域づくりのために
自立支援協議会で徹底させていく

事業(サービス)に利用者を合わせる（サービス主導）
⇒利用者を真ん中にサービスを組み立てる（ニーズ主導）へ

①地域の資源は全て本人のために‥本人中心部会

・相互協働で、見学、体験の機会、何カ所か見てから決めていく

※「行ってみてやって委員会」

・高齢のディサービスで気に入ったところがないか、見に行こう
・月7万円程の負担で住める、ケア付きの高齢マンションタイプの見学
・一人で暮らすグループホームを見に行こう
・生活介護だけど、工賃も結構もらえる事業所を見に行こう。‥

②各事業所の専門性・支援スキルは地域全体の共有財産に育てていく‥サービス向上部会

・発達障害、自閉症、精神障害、境界性パーソナリティー、重心医ケア、高次脳機能障害、就労支援スキル‥

現状維持のメンテナンスに留まらない計画を

本人の心の動く場面を探る（アセスメント）

⇩

心の動きを活かせそうな手がかり、ステージ、場面を用意する
（サービス等利用計画）

⇩

どう？どう？‥と伴走者として、チームで後をついていく
（やりっ放し、その場限りにしないためにモニタリング）

・介護保険のケアプラン‥メインテナンス、リカバリープラン
・サービス等利用計画‥アドバンス、心の動きを探るプラン
※いずれ、AIが自動的に作成してくれる時代になってしまっても、
そこだけは譲らない

日々の支援⇔地域づくり

体験のコンテンツ・ステージ・資源づくり

「地域自立支援協議会」(**基幹型相談員**)

⇕

「サービス等利用計画」(**相談支援専門員**)

⇕ どこに心が動いた?の共有化

「個別支援計画」(**サービス管理責任者**)

⇕ どこに心が動いた?の共有化

「日々の支援」(**支援員**) 内発性を探る日々

※ゆるやかに、決めていく

更なる地域づくり・・自立支援協議会を花開かせるために
とりわけ、基幹相談・主任相談等に求めたい視点

①一日3回位、地域の状況を思ってみる人間が必須

●思い続ける意思は実現につながる

②目指す当面の風景のイメージ力(二年先？ 三年先?)

●自分の得意な分野は結構先のイメージがみえる

③柿の実の熟し具合、内部と外部の温度差を感じる。

●反応しない行政・関係機関とは対立せずに、愛想よく立ち泳ぎ

④世間がブームになり始めているか?(魚の目)

●世間の関心度、たまたまの事件、新聞報道等の追い風、全体的なムーブメント、風が吹いてきているか？ チャンス到来を狙う

⇩

●関係機関にパートナーシップを組めるプレイヤーを見つける

⇒一過性に終らせず、必ず協議のステージ、枠組を提案する

※王道は「自立支援協議会」

例えば「発達障害」を地域のムーブメントにする

・平成17年～22年ごろ

「発達・・来ている、来ている・・今地域の、更に県全体の課題に浮上(顕在化)させないと手遅れになる」

・自立支援協議会、特支連携協議会、県の協議会等に波状攻撃的に(相談支援専門員、療育コーディネーター、就業・生活センター等)

※意図的というよりは、実際、発達に関わる事例の激増、傾向性、困難事例の報告顕著　とにかく顕在化させないと・・

⇔ **・市レベル・・保育園巡回チーム支援に予算化、市も独自の部所**

・地方紙の報道、テレビ(意図的に、若しくは偶然に←大切)

・県との官民協働

※厚労省出向の日詰さん県庁に戻る。施策実現協働のチャンス狙う。県の課長さん、保育園訪問等を同行。知事レク等

⇒**地域に発達に関わる多職種連携のキーパーソン必須と認識**

・平成23年度・・県に発達のあり方検討会設置　その後は一直線

地域づくりの熟度を見極める試金石
「地域生活支援拠点」の意義と醍醐味

※「本人中心、地域の暮らし」に向け、地域の関係機関と事業所が協力しあえているか‥

①これまでの相談支援体制づくりの総決算、そして、リトマス試験紙

・計画相談とモニタリング、一般相談、委託相談、基幹相談が真に機能しているか?

・自立支援協議会が形骸化していないか?

②地域資源と本人中心支援の試金石

・地域の事業所が真に本人中心に一肌脱ごうという合意のもとに展開されているか?

・入所施設の純化された真の役割にどれだけ迫れるか?

重層的支援と共生社会の実現に向けた取組の推進

●属性(高齢・障害・子ども等) リスク(要介護・要支援・虐待・生活困窮等)への個別支援施策
⇒地縁・血縁・社縁等、社会的セーフティーネット機能の衰退と支え機能の弱体化
●制度の谷間問題の顕在化‥8050　ダブルケア　ヤングケアラー　引きこもり　‥
⇒「利用縁」的地域コミュニティーの芽生え
●平成30年　改正社会福祉法　令和3年度重層的支援体制整備

地域共生‥高齢と障害の
ボーダレス化

「我が事・丸ごと」の地域作り・包括的な支援体制の整備

1．「我が事・丸ごと」の地域福祉推進の理念を規定

地域福祉の推進の理念として、支援を必要とする住民（世帯）が抱える多様で複合的な地域生活課題について、住民や福祉関係者による①把握及び②関係機関との連携等による解決 が図られること

2．この理念の実現に向け、市町村に於る包括的な支援体制づくりに努める旨の規定

○地域住民の地域福祉活動への参加を促進するための環境整備
○分野を超えて地域生活課題について総合的に相談に応じ、関係機関と連絡調整等を行う体制（＊）

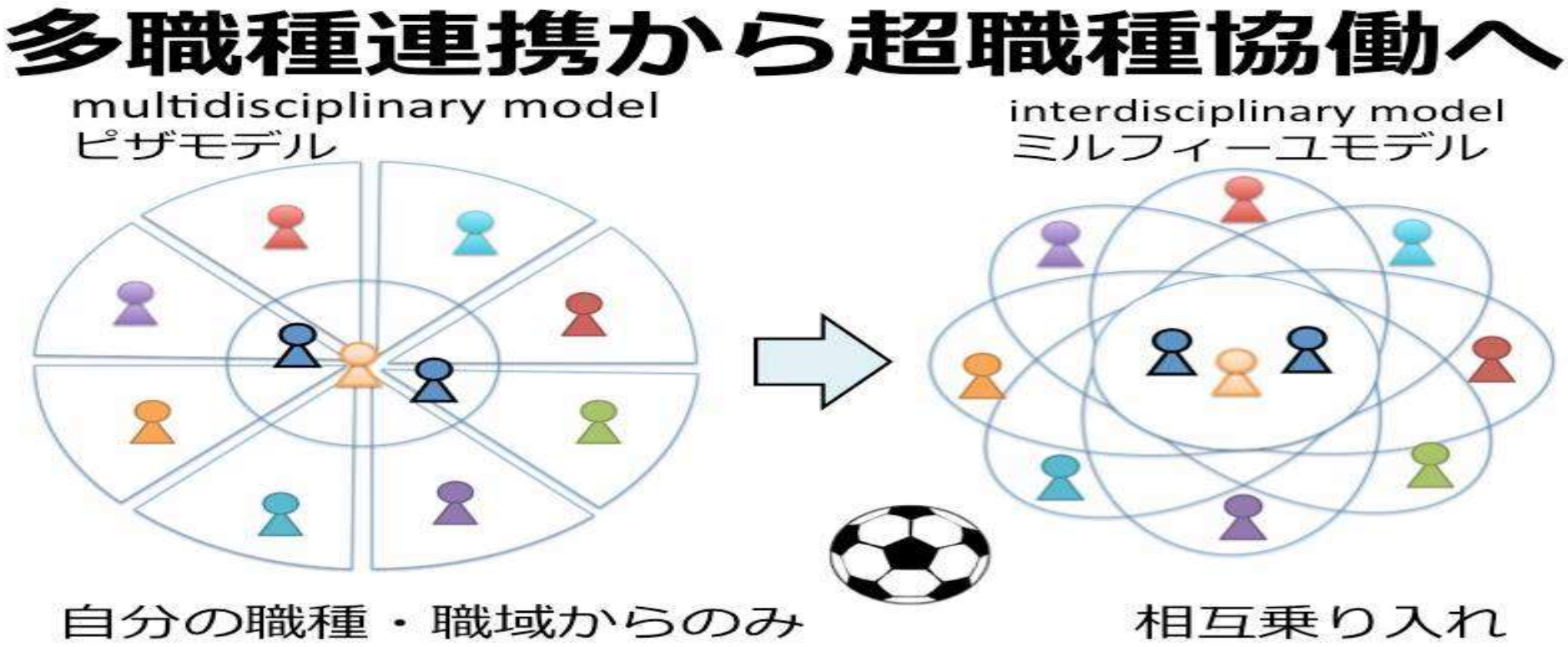
＊）例えば、地区社協、市区町村社協の地区担当、地域包括支援センター、相談支援事業所、地域子育て支援拠点、利用者支援事業、社会福祉法人、NPO法人等

○　主に市町村圏域において、生活困窮者自立相談支援機関等の関係機関が協働して、複合化した地域生活課題解決のための体制

3．地域福祉計画の充実

○　市町村が地域福祉計画を策定するよう努めるとともに、福祉の各分野における共通事項を定め、上位計画として位置づける。（都道府県が策定する地域福祉支援計画についても同様。）

障害・高齢・児童・困窮等々・・部署を越えた協働
既存の相談支援の一体的実施へ



多問題家族について、一緒に考える場

・8050問題　生活困窮　DV・虐待　災害時支援　等

※とりわけ、家族関係等に変化が生じた時が介入のタイミングであったりするので、泥縄的にならないよう、状況、Xデイを見越しながらの

予防支援会議